

自動火災報知設備にも寿命があります。

例えば受信機の場合、設置から15年以上もたつと、経年劣化などによって故障が発生する可能性が高くなってきます。

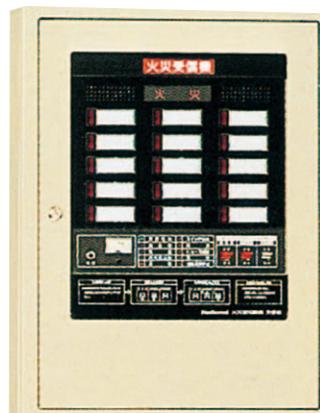
補修部品の供給も困難になっています。

最近では電子部品などの技術進化が早いため、使用部品が部品メーカーで生産中止になっているケースが多く、補修によって設備の機能・性能を維持するのが難しくなっています。

●供給が困難な受信機用補修用性能部品については [17・18ページ](#)

いざというときのために、最新設備への更新(交換)をご検討ください

老朽化するとこんな症状が...



- 警報音が鳴らない
- スイッチがきかない
- 扉が閉まらない
- ランプが点かない

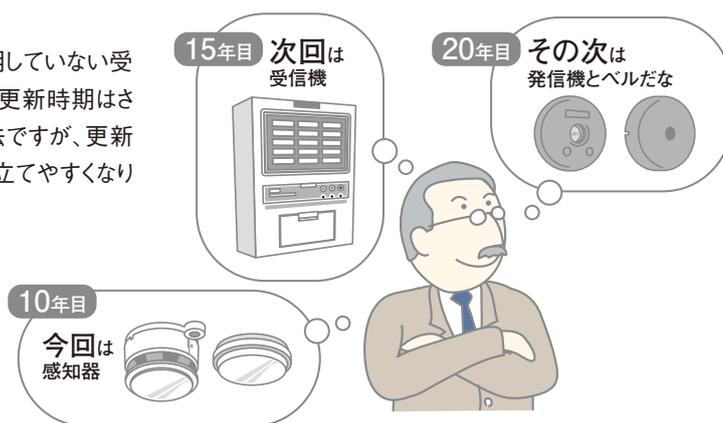
設備更新(交換)についてのQ&A

Q1 何年くらいで交換が必要なの?

A1 自火報設備の場合、10年～20年が目安です。

煙感知器が10年、受信機が15年(電子機器部品を多用していない受信機は20年)、発信機やベルが20年など、機器によって更新時期はさまざまです。設備全体を一気にリニューアルするのも方法ですが、更新時期を迎えるものから順次交換していけば、予算計画が立てやすくなります。

●更新時期の目安については [15ページ](#)



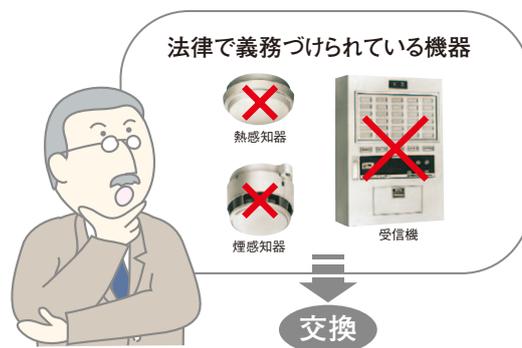
Q2 機器の劣化具合に関係なく、交換しなくてはいけないの?

A2 特定防火対象物では、劣化具合に関係なく、交換が義務づけられている機器があります。

特定防火対象物に設置された受信機や感知器の中には、消防法の「型式失効制度」によって交換が義務づけられているものがあります。そのほとんどが交換期限を過ぎていますので、該当する機器は早急に交換が必要です。

●型式失効制度については [12ページ](#)

●特定防火対象物については [489, 490ページ](#)



リニューアルご提案ツールセット

お客様におすすめのプランをご提案します。



リニューアルご提案ツールセットをご用意しております。当社営業所までお問い合わせください。

されることをおすすめします。

Q3 交換せずに放置していたら、何か問題がある？

A3 万が一の火災のとき、人命にかかわる被害に直結する可能性があります。火災による死者の約6割近くは逃げ遅れが原因です。つまり、火災で助かるかどうかは「早期発見」が決め手。感知器や受信機の劣化不良で重大な事故につながった場合、オーナーや防火管理者の責任は重大です。

感知器が働かないと…

気づくのが遅れる!

受信機が働かないと…

蓄電池の劣化不良
寿命を超えて使用した場合、「液漏れ」⇒「短絡」⇒「発熱」の経過をたどります。

知らせるのが遅れる!

ベルが働かないと…

逃げるのが遅れる!

Q4 交換すれば、確かに安全性は高まるのだからけど…

A4 コスト面・運用面でもメリットがあります。10年～20年前の機器に比べ、最新機器の機能・性能は大幅に向上しています。リニューアルすることによって、老朽化した機器の不良や修理から解放され、快適な設備運用と新築ビルに劣らない安全を手に入れることができます。

またランプ切れか!

修理費用が減らせる!

火災でもないのに発報!

非火災報が減らせる!

えっ、断線してた?!

トラブルを自動検出!

どう操作するんだっけ?

操作が簡単!

Q5 とはいえ、リニューアル費用の調達は頭が痛い…

A5 リースでリニューアルを行うこともできます。当社では、自動火災報知設備や誘導灯がリースで導入いただける「防災トータルリースパック」をご用意。資金調達が不要なので、無理なくご計画いただけます。

●リースについては [23ページ](#)



トータルリースパックのご提案

防災設備が、リースで導入いただけます。



	ビルオーナー様	工事会社	JA三井リース
■ご契約までの流れ			
防災設備の決定	●		
定 額 決 定	●		
内 容 決 定	●		
農 業 物 産 品	●		
リース契約締結	●		
機器の売買契約		●	
機器の納入		●	
検収・リース料支払い		●	●
代金の支払い			●

トータルリースパックをご用意しております。当社営業所までお問い合わせください。